










支出命令書 (一般)

市長 **	副市長 **	教育長 **	部長 **	次長 **	課長 	課長補佐 	係長 	担当者 
会計管理者 	会計課長 	課長補佐 	係長 	担当者 **	入力 	財政課合議 **	検収者 /	


起票日	令和5年 9月20日	所属	080100 市議会事務局
年度	令和5年度	会計	01 一般会計
科目	款	01 議会費	
	項	01 議会費	
	目	01 議会費	
目	事業	040000 議会調査研究事業	
	節	18 負担金、補助及び交付金	
	細節	90 その他	
	細々節	06 政務活動費	

金額	10,380 円	所得税	0円	タイムカード(出勤簿)確認
支払回数	3回	雇用保険料	0円	源泉徴収確認
負担行為額	300,000 円	その他	0円	被服貸与台帳記載確認
支出命令済額	14,832 円	控除額合計	0円	通勤経路及び金額確認
負担行為残額	285,168 円	請求書番号		
源泉支払内容	*****			

件名	研究研修費 10/12~10/13 第85回全国都市問題会議参加負担金及び振込手数料
----	--

摘要	
----	--

債権者等	支払方法	21 現金払	支払希望日	令和5年 10月 - 4日
	住所			
	名称	野田 悦子		
	役職等/氏名			
	銀行/口座			
	口座名義人	債権者番号		

領収住所				領収印	
領収氏名	野田 悦子				

上記の金額を領収しました。

支払済

令和5年 10月 - 4日
泉大津市 会計管理者 あて

支出負担行為 確認

001

負担行為番号
05-002565

伝票番号

05-010388

整理番号

05-000010-03









呼出番号

00538690



05 01 01-01-01 04-00-00 18-90-06

5年 9 22

供	議長	副議長	局長	次長	次長 補佐	議事調 査係長	庶務 係長	主査
覧								 

別記様式第5号（第4条関係）


政務活動費交付請求書

令和5年9月20日

泉大津市長
南出賢一様
(泉大津市議会議長経由)

会派名

代表者名

野田悦子 

政務活動費交付請求書

泉大津市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり政務活動費を請求します。

記

交付請求額	10,380円		
内 訳	10/12~10/13 青森県八戸市 第85回全国都市問題会議参加負担金及び振込手数料		
支払先	(株)JTB		
予算科目	研究研修費	交付残額	285,168円
使用者名	野田悦子		

令和5年9月5日

請求及び受領委任状兼口座振替依頼書

第85回全国都市問題会議 参加者各位

(委任者) 住所 青森県八戸市内丸一丁目1番1号

氏名 第85回全国都市問題会議実行委員会 会長 熊谷 雄一

下記の参加費に係る請求及び受領につきまして、次のものに委任します。

(受任者) 住所 宮城県仙台市青葉区一番町3丁目7番23号 明治安田生命仙台一番町ビル3階

氏名 株式会社JTBジェイネット東北 所長 鎌田 友子

●参加費 第85回全国都市問題会議参加費 お一人様 ￥10,000- (不課税)

なお、請求金の支払いにつきましては下記の口座に振り替えてくださいますようお願いいたします。

銀行名			支店名			預金種目	9. その他 ()		
口座番号									
口座名義	(カナ)								

だいしんキャッシュサービス
ご利用明細票

本日はご利用いただきありがとうございます。
ご利用明細票をご確認のうえ、お持ち帰りください。
裏面もご覧ください。

お 取 扱 日		取扱金庫・店番・通番	
05 10 04		1630074マ-2733	
お 取 引 店		□ 座 番 号	
お取引金種	万円	15千円	0千円
お取引内容	振 込	0千円	0千円
手数料	¥380	お 取 引 金 額	¥10,000*
時 刻	14:47	お 取 引 後 残 高	
説明コード	*****		

お受取人

ご依頼人

000204イヌ"ミオオツキ"カイ
様 0725331131 /ダ'エツコ

印紙税申告納
付に
税務署承認済

大阪信用金庫

支出命令書 (一般)

市長 **	副市長 **	教育長 **	部長 **	次長 **	課長 橋本	課長補佐 池	係長 梅	担当者 梅
会計管理者 田中	会計課長 田中	課長補佐 村上	係長 田中	担当者 **	入力 田中	財政課合議 **	検収者	

起 票 日	令和 5 年 9 月 2 7 日	所 属	080100 市議会事務局
年 度	令和 5 年度	会 計	01 一般会計
目 録	01 議会費	予算区分	0 現年度
款	01 議会費		
項	01 議会費		
目	01 議会費		
事業	040000 議会調査研究事業		
節	18 負担金、補助及び交付金		
細 節	90 その他		
細々節	06 政務活動費		

金額	81,620 円	控除	所得 税	0 円	タイムカード(出勤簿)確認
支払回数	4 回		雇用保険料	0 円	源泉徴収確認
負担行為額	300,000 円		その他	0 円	被服貸与台帳記載確認
支出命令済額	96,452 円		控除額合計	0 円	通勤経路及び金額確認
負担行為残額	203,548 円		請求書番号		
源泉支払内容	*****				

件名	旅費 10/11~10/13 青森県八戸市 第85回全国都市問題会議
----	------------------------------------

摘要	
----	--

債権者等	支払方法	21 現金払	支払希望日	令和5年 10月10日
	住所			
	名称	野田 悦子		
	役職等/氏名			
	銀行/口座			
	口座名義人		債権者番号	

領収	住所		領収印	
	氏名	野田 悦子		

上記の金額を領収しました。

支払済

令和5年 10月10日

泉大津市 会計管理者 あて

支出負担行為 確認

002

負担行為番号

05-002565

伝票番号

呼出番号

05-010652

整理番号











05-000010-04

00539629

05 01 01-01-01 04-00-00 18-90-06

5年9月27日

供	議長	副議長	局長	次長	次長 補佐	議事調 査係長	庶務 係長	主査
覧								 


別記様式第5号(第4条関係)

政務活動費交付請求書

令和5年9月27日

泉大津市長
南出賢一様
(泉大津市議会議長経由)

会派名
代表者名

野田悦子 

政務活動費交付請求書

泉大津市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり政務活動費を請求します。

記

交付請求額	81,620円		
内 訳	10/11~10/13 青森県八戸市 第85回全国都市問題会議 参加旅費		
支 払 先	野田 悦子		
予 算 科 目	旅 費	交 付 残 額	203,548円
使 用 者 名	野田 悦子		

令和5年度

出張申請書

(出張)

会派名	—		氏名	野田 悦子				
出発・帰庁年月日	出発 令和5年10月11日		帰庁 令和5年10月13日					
出張先(順路)	八戸市公会堂・公会堂文化ホール(青森県八戸市内丸一丁目1番1号)							
目的及び用件	第85回全国都市問題会議に参加							
区間	距離	運賃	料金	車賃	宿泊料	日当	食卓料	計
泉大津 (南海本線)	km	円	円	円	円	円	円	円
難波		490						490
なんば駅前 (空港リムジンバス 伊丹空港線)								
伊丹空港				650				650
" (飛行機)		JAL2163便 (スペシャルセイバー)						
三沢空港		14,310						14,310
" (三沢空港連絡バス)								
本八戸駅前				1,500	2泊 30,000	3日 7,000		38,500
本八戸 (八戸線)	1194.4							
八戸	6.1	14,080						14,080
" (東北新幹線)			特急料金 (はやぶさ) 6,800					6,800
東京	631.9							
" (東海道新幹線)			特急料金 (のぞみ) 5,810	繁忙期				
新大阪	556.4			200				6,010
" (大阪外口御堂筋線)								
なんば		290						290
難波 (南海本線)								
泉大津		490						490
(線)								
(線)								
10月12日の日当については、泉大津市職員旅費条例第23条及び同条例施行規則第4条の例により支給しない。							計	81,620

主管課用

令和5年度








領収書兼旅費明細書

(出張)

会派名	—	氏名	野田 悦子					
出発・帰庁年月日	出発	令和5年10月11日	帰庁	令和5年10月13日				
出張先(順路)	八戸市公会堂・公会堂文化ホール(青森県八戸市内丸一丁目1番1号)							
目的及び用件	第85回全国都市問題会議に参加							
区間	距離	運賃	料金	車賃	宿泊料	日当	食卓料	計
泉大津 (南海本線) 難波	km	円 490	円	円	円	円	円	円 490
なんば駅前 (空港リムジンバス 伊丹空港線) 伊丹空港				650				650
" (飛行機) 三沢空港		JAL2163便 (スペシャルセイバー) 14,310						14,310
" (三沢空港連絡バス) 本八戸駅前				1,500	2泊 30,000	3日 7,000		38,500
本八戸 (八戸線) 八戸	1194.4	6.1	14,080					14,080
" (東北新幹線) 東京			特急料金 (はやぶさ) 6,800					6,800
" (東海道新幹線) 新大阪		556.4	特急料金 (のぞみ) 5,810	200	繁忙期			6,010
" (大阪外環御堂筋線) なんば			290					290
難波 (南海本線) 泉大津			490					490
(線)								
(線)								
10月12日の日当については、泉大津市職員旅費条例第23条及び同条例施行規則第4条の例により支給しない。							計	81,620
右の金額領収いたしました。				金額	¥ 8 1 6 2 0			
令和 年 月 日				職名	—			
泉大津市会計管理者 殿				氏名	野田 悦子			



□決 裁 ■供 覧

受発記号・番号		收受年月日	令和5年11月15日		
差出 名	野田 悦子				
あて 名	泉大津市議会議長			提出期限	
收受文書の記号		收受文書の日付	令和5年11月11日		
件 名	報告書				
	議長	副議長	事務局長	次長	合 議
					
主	次長補佐	議事調査係長	庶務係長	主査	
管					
処 理 上 の 意 見 及 び 注 意 事 項					
<p>日 時：令和5年10月11日（水）～令和5年10月13日（金）</p> <p>出張先：青森県八戸市 八戸市公会堂・公会堂文化ホール</p> <p>目 的：第85回全国都市問題会議に参加</p>					

(R5.11.15 提出あり)

報 告 書

令和5年11月11日

泉大津市議会議長殿

出張者 野田 悦子

下記により出張いたしましたので、その概要についてご報告いたします。

記

- 1、 日 時 : 令和5年10月11日(木)～13日(金)
- 2、 出張先 : 青森県 八戸市公会堂・公会堂文化ホール
- 3、 目 的 : 第85回全国都市問題会議

テーマ 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

今回の都市問題会議テーマ「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」は、本市が取り組んでいるブンカミーティングからのまちなかアートフェス2023や、市民体育祭から変わった2023スポーツフェスタなどの取り組みにも共通し活かせるのではないかとこの視点で臨みました。

視察中は青森という土地から気温の心配をしていましたが、穏やかで暖かな日が続き日中は汗ばむほどでした。さすがに日が落ちてからは気温が下がり上着が必要でしたし明け方は大阪では感じない肌寒さを感じることもありましたが概ね過ごしやすい、芸術の秋、スポーツの秋に参加者は勉学の秋であるなどと色づいた木々や街の風景を見ながら思いました。

「文化芸術は人間だけが持ちうる高度な精神活動の賜物（産物）で人々の創造性と感性を育むだけでなく、地域コミュニティを繋ぐモノであるとし、スポーツは心身両面にわたる健康を促進しさらに克己心やフェアプレーの精神を培うとともに、人間の可能性の極限を追求する。」と議題説明の冒頭にあるが、講師の方々がわかりやすくそれぞれの言葉での話で惹きこまれた。

報告並びに所感

一日目 12日(木)

— 基調講演 —

<アートの役割って何だろう？>

東京藝術大学 学長／アーティスト 日比野 克彦氏

日比野氏は大学長ではあるものの、アーティストの側面も持つからか話が軽快で引き込まれる方であった。以前から都市の再生やまちづくりに取り組んでこられた中で、八戸市のまちづくりに関わっておられて今回の基調講演につながったということである。

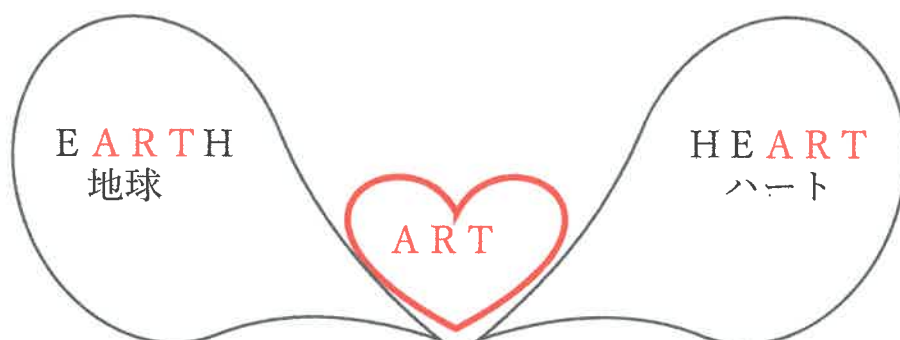
八戸市とは2021年開館の美術館に携わり、ジャイアントルームという市民交流の場をまちづくりにもつながらる場所を拠点に地域全体をアートの街として展開し、まず市民が楽しむ街に出かける、訪れた人が面白いと感じる、知らないお店に入ってみようかと思える仕掛けづくりに広がっていったと話す。美術館は八戸市だけでなく、金沢市でも美術館と地域をつなぎ外周を張り巡らせたロープに各地域で育てた‘あさがお’がつるをのぼすなど、市民が何度でも訪れたい場所づくりに寄与されていたり、香川県三豊市栗島でアーティストレジデンス事業(島中に洞窟壁画なども含むアート作品を作る事業)などもあるとのこと。

熊本市では第8次総合計画展として、策定はするもののわかりにくい市の計画をアート展として展開し、視覚から訴え、体験して理解してもらう取り組みなどがあり、本市だけではないようだが、市民・地域への周知が一番の課題として大きいのではないかという点の解決策の一端を聞いた気がする。

『アート(美術)では食べていけない』からアートから社会的処方・文化的処方を企業と連携し産業として落としていくことで継続されるそのような人づくりをSDG's≠アートとし、社会人と学生が共に学ぶダイバーシティ オン センサリールーム プロジェクトで全国履修を可能にして進めている。2024年国民文化祭(岐阜県開催)東京芸大・岐阜大と市に居るアーティストを人と人、人と社会を結ぶ「文化リンクワーカー」と位置づけ今後につながる人づくりになった。海外の例として、マンチェスター市を挙げ、工業都市で人種・女性・移民などの社会的課題を美術館のアーティストがファシリテーターとなり食事をしながら形にしていく展覧会を開催し

オンラインでも発信するなど穏やかに街が変わる取り組みなども紹介いただいた。

最後にEARTH（地球）にもHEART（心）にもART（アート）が含まれていると締めくくられた。



— 主報告 —

<八戸市の文化・スポーツによるまちづくり>

八戸市長 熊谷 雄一氏

八戸市は全国有数の水産都市として、また東北有数の工業都市、国際物流拠点都市として発展してきたが、北海道・北東北縄文遺跡の一つである「是川石器時代遺跡」や国の重要無形文化財「八戸えんぶり」、ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の一つで会場前に設置されていた「八戸三社大祭の山車行事」などの文化に根差した街が元々の資産としてあった。そんな中2011年に八戸ポータルミュージアムはっちが新たな交流の拠点として開館し文化芸術、産業、観光、市民活動、子育て支援などの各施設を一体化して地域資源の魅力の創出・発信している。

はっちのオープンスペースでは『まちなか広場マチニワ』では文化施設内ではあるが三社以上で物販を企画すると特典をつけるなど、市が市内事業所の後押しも進めている。このような特徴のある青森県内の5つの美術館連携で全国画一的な発展ではない地域に根差したまちづくりを進めている。

また、スポーツでは東北にあっても雪が少なく乾燥した土地から盛んであったスケートに着目し老朽化した屋外スケート場を2019年廃止するにあたって、地上3階地下1階の屋内スケートリンクYSアリーナ八戸を同年にオープン。2020年には民間施設フラット八戸がオープンし、スケートリンクでは氷を張るのに時間と費用が掛かるため通常半年近くはスケート

リンク以外の使用が出来なかったものを半日でリンクとバスケットボールコートに転換でき普段から市民がスケートに親しみ、国際的なスケート大会や練習拠点としても新幹線の開通などの後押しで進んでいる。現在民間団体との連携でスケート教室の開催など積極的に「氷都八戸パワーアッププロジェクト」の実施を通して足元の競技人口の裾野を広げる活動にも力を入れている。

このような多くの関係人口を増やし、観光客の集客にも努めている中では、ナイトライフとも称される夜の飲食店の充実も大切だが、古くからあり男性が多かった複数の横町を女性や若者にも足を踏み入れやすいイベントの開催などで変革。その上でこれまでの客筋も足が遠のくことのない「酔っ払いに愛を」のキャッチフレーズで酔っ払うことが恥ずかしくない雰囲気づくりを進めている。でも、飲まない私からの感想は公で「酔っ払いに愛を」なんて言われたらかえってべろんべろんになりにくくて愛される酔っ払いが増えるんじゃないかなどと思った。

まちづくりには元々あった地域資源を活かす拠点づくりとネットワークを作ることが大事と考えるが、本のまち八戸を目指す拠点として公営ブックセンターにおいて読む人だけでなく、本を書く人を育てる活動として本の書き方講座を主宰し、出来上がった作品を冊子として渡すなどより励みになり本気で取り組む受講者が増えている。

これらの公共施設がどのように運営され、いくらの維持管理費が税から支払われているのかを見える化し市民が利用し、改善を提案する力にしている。そのことで市職員の前向きな意識づけにもつながり、ジャイアントルームの活用など人と人、人と活動のつながりの場が広がっているとのことであった。

ただ公共施設を整備するのではなく、一部の人の意見や利用に頼るのではなく、様々な個々人の関心事やテーマに基づくコミュニティとそこに関わる当事者を増やすことで施設も街も発展をしていくのだと受け取った。

— 一般報告① —

<まちづくりの活力は地域に根差した文化政策から育まれる>

文化事業ディレクター・演出家 吉川 由美氏

2010年8月に青森へ来られた吉川氏。まちづくりを始めるにあたって

地域の調査をすると市街地に対しても地域に対しても関心や肯定感が低いことに驚くところから始まったそうだ。

まちを再生するという大きな事業を文化の視点からどう取り組むのか、市民が自身の力で参加し地域力を様々な事業者・年齢などすべてを超えてそれぞれの壁を揺さぶり力をブーストさせるプロジェクトとして地域に根差したテーマを探しアーティスト、市職員、コーディネーターたちと進めてきたと話す。社会の分子ではなく分母としての文化施策である。

2010年といえば東日本大震災の前年である。まちづくりと復興どちらも進めることができたのは大きいのではないか。はっちがその中心になりアーティストたちがリサーチと政策を行うというリアルに即座に対応していたことも大きいと感じた。山本耕一郎氏による「八戸のうわさ」は最初に街に出たときから街中に貼られている吹き出しポップで目にしていた。会場までのさほど遠くない距離だけでも多く目にする。見た目は「？」だらけだったが、訪れたなら誰の目にも止まる物だ。その意味を聞いて改めてなるほどと思い読みながら歩くと喫茶店の入り口に少し色あせた吹き出しで【このお母さんは99歳らしいよ】など「えっ？この方は今は何歳なんだろう？そもそもご存命なんだろうか…」と入ってみようかななどと市民が読んでも気になるものが多くあった。地域が人とのつながりを強くする、人ともっと関わりたくなる仕掛けであることがわかり面白いと思った。

また、市内いたるところにオブジェがあり、街歩きが楽しく人との話題にもなることが街に興味を持ち誰でもかかわれ繋がれる仕組みは泉大津市の街中にあるおづみん探しが一時話題になったことを思い出し活かさないかと参考になった。



— 一般報告② —

<標高差 1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出>

長野県東御市長 花岡 利夫氏

まず最初に、地域としてけして恵まれた土地柄ではないことを逆手にとっ

て寒暖差を利用した10市町村でブドウ作りからワイナリーへと進化させる広域だからこそできることに取り組む強みを語られた。

また、欠点を個性にとスポーツエリアを整備しトップアスリートなどを含む海外へ行かなければならなかった高地トレーニングに特化した施設を設置。アスリートの希望を取り入れ練習・休息（宿泊）・食事管理・医科学的サポートが国内のさほど遠くない場所でできる施設とし、近年SNSなどの普及により問題視されている選手のプライバシー保護に力を入れセキュリティにも自信を持つ環境を提供するまでになっていると伺った。

具体には500m内に施設を集約し、民間の食堂を入れニッスイと日本水泳連盟と名前つながりで食材管理をお願いし5週間の滞在中の朝・昼・晩の食事を一度も同じメニューを出さないなどのこだわりでももちろん医科学的支援も含むので選手にあったメニュー提供ができる。当初は陸上と水泳が多かったが、現在は陸上と水泳から派生したトライアスロンそして自転車競技、自転車競技はスケート選手の夏のトレーニングと広がりを見せている。

この様な強みを手に入れたことで、ウエルネスシティとおみスポーツツーリズムとワイナリーツーリズムと集客、関係人口が広がり続けている。

泉大津市は比較的恵まれた土地ではあるが、古より恵まれていたからこそ、転換には知恵と工夫が必要ではないか、これを個性と捉えて何ができるか。小さな芽がいくつも出てきている今の状況からそれを各々のイベントとは捉えずつながりのある形にできないかと思いをはせた。

— 一般報告③ —

<まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効利用>

株式会社鹿島アントラーズ FC 取締役副社長 鈴木 秀樹氏

鹿島アントラーズと聞けばサッカーの試合を観ない人でも知っているプロサッカーチームである。自治体とプロスポーツと聞いて思いつくのはスポーツ教室やイベントと地場産業とのコラボであるが、それだけにとどまらない地域の社会課題解決にまでつなげていることをお聞きした。

当初、何もない土地、人のいない土地だった場所にスタジアム建設の話が出たときには人口44,000人の町に11,000人収容の物を造ってどうするの

かと言われたが、現在町は 66,000 人に増えている。それは当初から勝ちにこだわったチーム作りを進め、最多のチャンピオンホルダーにまでなったことが大きい。このノウハウを地域に貢献するのは人材育成のノウハウを活用することで役所の職員を鹿島アントラーズへ派遣し、現場で仕事の仕方を覚え、考え動く人材にして役所へ帰ってもらっており、現在 7 市町村と関係を持っているが派遣後の職員がそれぞれの役所に戻ると仕事のスピードアップになっているという。職員の一番の仕事が自治体の予算取りに一番の注力を払いその予算は使い切らなければ翌年の予算が取れない⇒[予算は使い切る]この考えが問題ではないかともいわれ始めている今だからこそ企業マインドを入れられる企業などへの派遣は有効なのかもしれない。

二日目 13日(金)午前

ー パネルディスカッション ー

①

<一巡した文化芸術を活用したまちづくり

～自治体文化行政から魅力的なまちへ～>

東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林 真理氏

自身の著書「文化政策の現在3 文化政策の展望」(2018年出版)から自治体文化行政を「経済的地盤沈下への対応へとつなげることが目的であり、同時に地域に目を向けた行政のあり方を提示した上で大きな意味を持つ」とし6点の指摘を紹介された。

- 1, それまでの文化の教授や活動を社会教育と結び付け、個人の営みと位置づけて公民館行政などが細々と行われていたのに対して、地域社会の文化という空間的・集団的アイデンティティに関わる視点を導入した事である。

- 2, 分権的視点から、きそじちたいを実践の現場とすることで日本全国における様々な地域独自の多様な文化的・歴史的特性を発見し、その存在を再認識した事である。
- 3, 地域の文化振興は、「市民自治による市民文化の形成」を基本として市民主体によって実現できるとされたことである。
- 4, それを実現していくためには、通常の行政論理や規範の押し付けでなく、行政の政策形成や事業実施のあり方を見直すことの必要性が提示されたことである。
- 5, 3、の点とも関わるが地域社会の文化形成において能動的にその責任を担っていく市民という概念を改めてクローズアップしたことがある。
- 6, 当時まだ言葉として定着していなかった「協働」(パートナーシップ)という概念を生み出したのもこのような自治体文化行政の考え方に基づくものである。

以上を紹介したうえで、年数が経ち現状と照らし合わせての2点目をこれまでの東京に集中している文化芸術、アーティスト、エンターテインメント団体を地域に招聘し地域で発展させるという考え方から、地域独自の文化資源に目を向け地域文化の継承や発展に繋げつつあるとした。

今、文化についての考え方が行政で考えて進めるのではなく地域主導、市民の自発的コミュニティの活動をどう活かすかを行政が手助けする仕掛けづくりをする方向に変わってきていてその方がそれぞれの地域(人)にあった‘まち’が形成されると受け取った。そしてそのまちづくりのコアとして文化施設がある。ただ建てるのではないどのようなコンセプトの建物をどのように活用するのか、出来るのかが重要なのではないかと思った。

本市にも細々と続いてきた公民館が形を変えようとしている。今、考えるときで、今、動く時なのだとして強く意識させられた。

②

<八戸の独自性が生み出してきたもの>

合同会社 i m a j i m u 代表取締役 今川 和佳子氏

2011年2月オープンの八戸市の新たな施設『八戸市ポータルミュージアムはっち（通称ハッチ）』のコーディネーターとして関わった経験とその後『八戸ブックセンター』（2016年）、『八戸まちなか広場マチニワ』（2018年）、『八戸市美術館』（2021年）と変わりゆく街づくりを見てこられた。

当初、市街地では商店街も人も郊外型大型施設に行くことが当たり前の中、全国でも前例を見ない施設といわれた公民館でも美術館でもないはっちの建設に市民には不安も大きかったという。それをオープンまでの3年に実践で示そうと30もの事業で実感してもらうことを進めたという。

市民の力、不安の中にあった期待を醸成することで生まれたマンパワーの中心としてのはっちがその後の施設建設の真ん中で機能している様子がかがえた。

本市でも計画中の公民館の集約施設がその役割を果たすようになるには、明確なコンセプトと人を巻き込んでの取り組みが必要ではないか。そうでなければできた時に通った人がそのまま継続し、世代交代のないまま細々と続く施設（現在の南北公民館）のようにいずれなくなってしまおうと感じた。

③

<地域活性化におけるスポーツの役割とその変化>

拓殖大学商学部教授 松橋 崇史氏

スポーツのプロチームの誘致による地域活性化の動向について経緯から紹介された。その中には行政主導のスポーツ教室から都市部に流入した新たな人々によるスポーツサークルが誕生する試みなどもあったとし、地方においては国体が47都道府県持ち回りで開催されること、種目別開催の開催広域自治体内での変化なども紹介され、スポーツの持つ全力で取り組む姿勢やその周りで起きる変化を活かすまちづくりの有用性を挙げられた。「全力」を可視化し、多様性を体現するスポーツは競技者のみならず街にも力を与えることを改めて納得させられた。

④

＜スポーツとアニメを活用したにぎわいの創出

～誇り高い沼津を目指して～>

静岡県沼津市長 瀬重 秀一氏

市政100周年を迎えた沼津市は静岡県東部にあり海山川の自然を活かしたスポーツ拠点として近年様々なスポーツ施設を展開している。Jリーグクラブの拠点ともなっている愛鷹広域公園、本年3月にオープンの沼津市総合体育館、フェンシング交流拠点、「BMXやMTBの練習場と遊び場を兼ねた施設と多彩な施設からスポーツの持つポテンシャルを積極的に活用したまちづくりを進めてきた。

沼津市の学校を舞台にアニメの物語の政策の話があったことから、市が積極的に職員の動向案内や自治会への説明なども担い放送開始に向けた支援を行った。現在、その人気から題材となった街並みへ聖地巡礼と多くの来訪者が訪れ、民間事業者もフラッグの掲出など盛り上げてくれている。

行政と民間が様々な取り組みにタッグを組むことで相乗効果が生まれており今後の可能性も示された。

⑤

＜文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部

～市民一人1文化・1スポーツの推進～

京都府綾部市長 山崎 善也氏

市民一人1文化・1スポーツを2021～2030年の総合計画に盛り込み市民一人一人が文化に触れ豊かな生活を、スポーツに取り組み健康に生きるとして進めてこられた。歴史のある文化芸術を大事に「平和をねがい、祈りあるまちにしよう」「教育をたいせつにし、文化のかおるまちにしよう」とわかりやすい市民共通の目標を柱に思いのこもったまちづくりが進められている。また、合唱も盛んで様々な形態の取り組みで多くの人に関わっていることも紹介された。

一人1スポーツといってもプロ競技ではなく、自治会等対抗ソフトボール大会、市民駅伝競走大会など地域に根差したスポーツ大会、自然を活かした

スポーツとしてサイクリングなど多彩な個々にあった取り入れやすさを提供する、自治体が応援団としての役割を果たすことで市民の後押しを進めている点が本市の何にどうかかわるのかを考えさせられた。

《所感》

二日目のパネルディスカッションはほぼ講演の形となり、それぞれの発表から他の方がどう感じどう活かせるのかなどの深い話にならなかった点が残念ではあるが、二日間通してどの講話も、本市の今後を考える意味で発見や改めての気づきにつながるものであった。

《追加報告》

二日目の午後の視察は申し込まず、帰途途中の仙台に震災のその後を視察に向かった。

仙台駅から地下鉄東西線の新井駅舎内に新たに設置された「せんだい3.11メモリアル交流館」とそこからバスで荒浜小学校の遺構を見学した。

仙台の街は中心街は津波の被害もなく震災前とあまり変わらないようにお聞きしたが、バスに乗ると人が生活してはいけない区域が広がり、空き地や田畑が広がる空間が広大にあった。

メモリアル交流館では、人も少なく施設の方がついて説明をしてくださったり、荒浜小学校からの最終バスには私一人だったため出発までの時間に運転手の方と話すことができ、その優しさにより一層震災時の大変さが伝わってきて、展示物・小学校の校舎、校舎内の動画とともに胸が熱くなった。

荒浜では大きな堤防は築かれず、避難して助かったという経験から海沿いの道路をかさ上げし、堤防と避難場所の両面を果たしている様子を見た。また、海沿いは綺麗な白い砂浜がそのまま残っていて訪れる人のための施設も出来ていた。大きな駐車場の横には高台が造られ芝生で覆われた市民も観光客もゆっくり過ごせ、いざというときには避難場所にもなる丘があった。無

機質な堤防に囲まれた海の見えない浜とどちらがとは言えないのは、被害の大きさ状況の違いかもしれない。

次はまたしっかりと時間をとって他の地域も見て回りたいと思いながら夕刻の新幹線に乗り帰途についた。

